

福山市における中学校 武道必修化に向けた取組



福山市教育委員会

福山市教育委員会は、来年度から必修となる武道を円滑に実施するため、平成21年度から文部科学省の学校体育振興事業「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」の委託を受け、地域の指導者の協力を得ながら実践的な研究を行っている。

1 はじめに

本市は、広島県東部に位置する人口47万人の中核市であり、36市立中学校の生徒数は、1万1829人（日23・5・1現在）である。教育委員会では、従前から武道

の指導力向上を目的とした教員研修を年1回行ってきたが、平成24年度からの中学校新学習指導要領の全面実施に向けて、更に、平成21年度に、全日本剣道連盟発行の『剣道授業の展開』を教材とした3日間の実技講習会や、平成21・22年度の2年間で、市立学校全教員を対象とした「新教育課程説明

会」を実施してきた。

また、文部科学省「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校事業」を、平成21年度には、済美中学校と加茂中学校、平成22年度には、中央中学校、神辺西中学校、千年中学校が、それぞれ指定を受けて研究を行い、その成果の普及に努めてきた。

しかしながら、今年度を実施した「中学校保健体育科における『武道』に関する状況調査」の結果は、38人中16人（42%）が「剣道の指導に不安がある」と回答するなどの状況が明らかになっている。そこで教育委員会として、武道必修化に向けて次の2点を課題と捉え、取り組んでいる。

2 中央中学校での実践研究

・地域の武道指導者を活用した指導体制の構築
 ・武道を専門としない教員の指導力の向上

本稿では、中央中学校における地域の剣道指導者と連携した取組について報告する。

(1) 研究テーマ

新学習指導要領に対応した単元計画の作成と指導のあり方、地域の剣道指導者との連携を通して、

(2) 単元指導計画

3年間を見通した系統的な指導を行うため、各学年8時間を配当した単元指導計画を作成し、授業を行った。

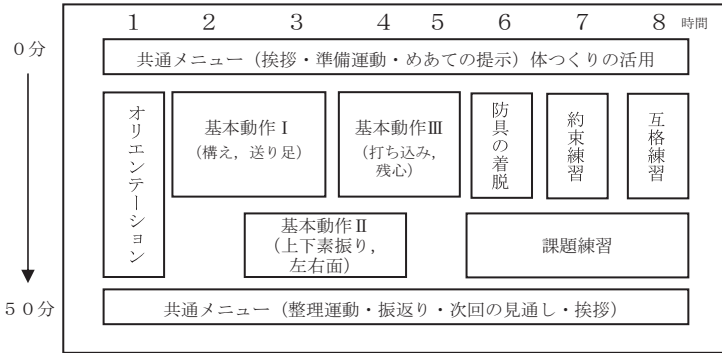
(3) 第3学年の授業内容

【ステップ1】
 ア オリエンテーション(1時間)
 ねらい…剣道の歴史や礼儀作法を理解し、道具の名称を知

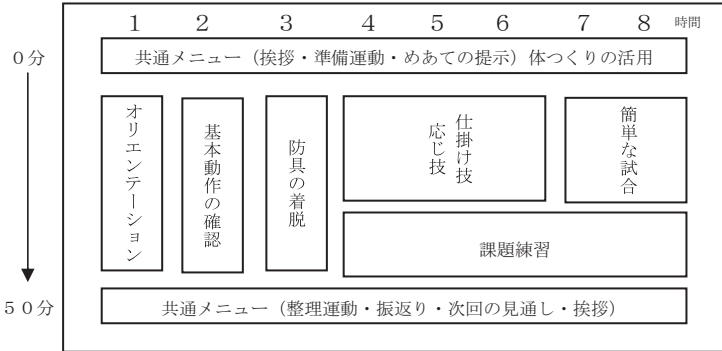
る。
 ・地域指導者の講話を受け、その内容を資料にまとめ、生徒に配付するとともに体育館の入口に掲示し、伝統的な行動の仕方への意識を高めた。

・講話では、特に礼儀作法を重視した。生徒も授業始めだけでなく、体育館の入館時や退館時にも美しい礼ができるようになった。

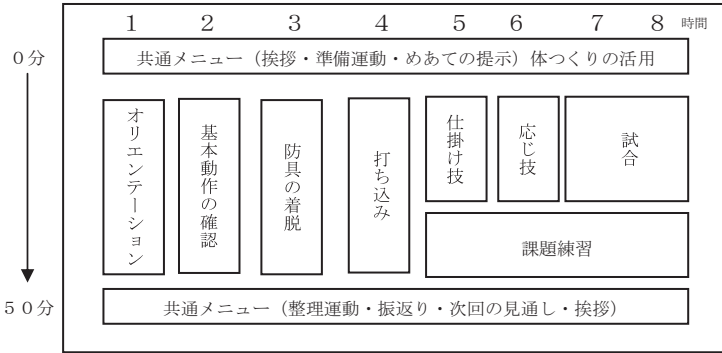
第1学年



第2学年



第3学年



黙想



入口の掲示



座礼



打ち込み



全体での素振り



指導者による説明



一足一刀の間

イ 足さばき、素振り、打ち込み
 (1時間)
 ねらい…足さばきを習得し、刃筋
 正しく竹刀を振ること
 ができる。

・足さばき、素振りについては、
 全体での説明の後、実技を行い、
 その際、地域指導者と教員とで
 個別に指導を行った。
 ・手と足の動きを合わせることが
 難しい生徒がいたが、個別に指

導することによって、ほとんど
 の生徒が正しく竹刀を振るこ
 とができるようになった。
 ウ 防具の着脱(1時間)
 ねらい…防具(垂れ、胴、手拭い、
 面、小手)を確実に着装

することができ
 ・地域指導者が模範を示した後、
 実際に各自で防具の着装を行
 った。地域指導者と教員とで個
 別に指導を行った。
 ・垂れについては、全ての生徒が
 正しく着けることができるよ
 うになったが、面については一
 人で正しく着けられる生徒は

ほとんどおらず、二人組で着け
 るようにした。手拭いについ
 ては、巻く方法と折ってかぶる方
 法と二通り指導した。
 エ 防具を着けての打ち込み稽古
 (1時間)
 ねらい…刃筋正しく相手の面、小
 手、胴を打つことができ
 る。

・地域指導者と教員とで模範を示
 した。その際、打ちやすくなる
 ため、受け手の動きも説明した。
 ・間合いがわからず、有効な打突
 ができていない生徒がいた。各
 自の間合いの違いを理解させ

- ・地域指導者が模範を示し、二人組になって行った。
- ・出ばな小手については、多くの

ア 出ばな技・払い技・引き技の稽古(1時間)

ねらい…出ばな小手、払い面、払い小手、引き小手が正確にできる。

【ステップ2】

- ・受ける側が不必要に動いてしまい、防具のないところを打たれる場面があり、受ける側の動きについてもより細かく指導する必要がある。



打ち込み(面)

生徒が使えるようになったが、引き小手については、下がりながら打つことが難しく、指導に時間を要した。



鍔ぜりあいから引き面

・模範を行う際、竹刀さばきの素早さを実感させるため、最初にこれから何を行うのか生徒に伝えず、ただ本気で打ってくるように指示し、打ってきたところに応じて技を出した。その竹刀さばきの素早さに全員が驚くとともに、「自分たちもできるようになりたい」という発言がみられた。

イ 応じ技(抜き技、返し技、すり上げ技)の稽古(1時間)

ねらい…面抜き胴、面返し胴、小手すりあげ面が正確にできる。

【ステップ3】

試合(2時間)

ねらい…試合の行い方やルールを理解し、既習の技を活用して試合をすることができる。



面抜き胴

・最初の仕方やルールについての説明の後、4人ずつのグループに分かれ、生徒の審判で、試合をした。

・最初は声が出なかったり、思い切って打突することができなかったり、審判も有効打突の判断ができなかったりしたが、多くの試合を経験したり見たり

・試合の仕方やルールについての説明の後、4人ずつのグループに分かれ、生徒の審判で、試合をした。

【ステップ3】

試合(2時間)

ねらい…試合の行い方やルールを理解し、既習の技を活用して試合をすることができる。



面抜き胴



立礼～蹲踞



試合

することです。試合を成立させる
 ことができた。
 ・身に付けた技を使おうとする意
 識はみられたものの、試合にお
 いて重要な局面で技を出し有
 効打突とすることができなかつ
 った。その際、見ている生徒か
 ら「今チャンスだったのに……」
 という声があがるようになった。
(4) 研究成果
 ア 単元指導計画について
 ・単元全体を見通した計画を立て
 て指導することで、3年生は、
 打ち込み等の基本動作から仕
 掛け技、応じ技へと段階的に技
 能を高めることができた。単元

末では、相手とかけ引きをしな
 がら真剣に試合を行い、剣道に
 対する関心や学習意欲が高ま
 った。
〔生徒の感想〕
 剣道は「寒い」「痛い」「楽し
 くない」。それが最初の思いで
 した。でも、やってみるとうちに
 すごく楽しいということに気
 付きました。高校へ行っても剣
 道がしてみたいです。
 ・挨拶を共通メニューに位置付け
 て繰り返し指導を行うことで、
 礼儀作法の意義を理解させ、相

3 教育委員会の今後の取組

**(1) 地域の武道指導者を活用し
 た指導体制の構築**
 ・ 武道（剣道、柔道等）連盟や警
 察署等と連携して、各学校が地
 域人材を活用できる体制を整
 備する。
**(2) 武道を専門としない教員の
 指導力の向上**
 ・ 保健体育科担当教員が自信を持
 って指導できるよう、力量に応
 じた実技講習会等、研修の場を
 設定する。
 ・ 中学校保健体育研究会と連携
 し、積極的な武道の授業の公開
 や普段の授業参観ができる仕
 組みをつくる。
 ・ 各校が武道必修化に向けて円滑
 に移行できるよう、新学習指導
 要領に対応したシラバスモデ
 ルを作成・提示する。

手を尊重する態度を身に付け
 させることができた。
〔生徒の感想〕
 剣道で一番学んだことは「礼
 儀」です。道場（体育館）に入
 るときに礼、授業の始めに礼、
 終わりに礼、稽古中も礼、どれ
 も大事だと思いました。
 イ 地域の剣道指導者との連携に
 ついて
 ・ 教員が地域指導者の専門性を活
 かした指導に直接触れること
 で、剣道の歴史、礼法、着装、
 基本動作から試合に至るまで
 の技やその段階的指導方法を
 学ぶことができ、指導力の向上
 につながった。
 ・ 事業終了後も特別非常勤講師と
 して地域指導者を活用した授
 業を行う。